

別添

[第17回少年問題シンポジウム実施要項]

1 開催日時

平成22年11月17日(水) 午後1時30分～午後5時30分

2 開催場所

日本消防会館 ニッショーホール (別紙地図参照)

東京都港区虎ノ門2丁目9番16号 TEL 03(3503)1486

[交通の便]

地下鉄銀座線「虎ノ門」下車・3番出口徒歩5分

地下鉄日比谷線／千代田線／「霞ヶ関」下車・A4番出口徒歩10分

JR・新橋駅下車／地下鉄銀座線乗り換え・「虎ノ門」下車

3 事業主体

(1) 主催

(社)全国少年警察ボランティア協会／(財)社会安全研究財団

(2) 後援(予定)

警察庁／内閣府／法務省／文部科学省／厚生労働省

NHK／毎日新聞社／読売新聞社／(財)全国防犯協会連合会

特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

(3) 協力(予定)

(社)日本PTA全国協議会／(社)全国高等学校PTA連合会／(社)東京母の会連合会

日本教育新聞社

4 シンポジウムのテーマ

「次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう～」

5 開催の趣旨

今日の少年非行情勢は、刑法犯で検挙される少年の人数は減少しているものの、少年による社会の耳目を集める重大事件が後を絶たず、また、児童の虐待事件や少年の福祉を害する犯罪が多発するなど、少年の非行防止及び保護の両面において、依然厳しい状況にある。

こうした刑法犯少年の7割を占める少年非行が、万引き、オートバイ盗、自転車盗、占有離脱物横領といったいわゆる初発型非行で、犯行手段が容易で動機が単純であるが、本格的な非行へ深化していく危険性が高い非行である。

これらの非行多発の要因として考えられるもののうち、最たるものとして指摘されるのは、子ども自身の規範意識の低下や不足といったことであるが、このことで思い致すべきは、子どもの育成に不可欠であり、その成長各段階において、家庭、学校、地域の各々或いは相互に連携して行われるべき、社会や生活のルールを守り、人との約束ごとは違えない、とい

ったいわゆる規範意識を身につけさせる指導や教育が適切に行われてきたか、ということである。

私たち少年警察ボランティアは、「地域の子どもは 地域で守り 育てる」という信念のもと、子どもは、家庭や学校だけでなく、地域の大人たちみんなで、力を合わせて見守り育てていかなければならないと考える。

第17回を迎えるこのシンポジウムには、「次代を担う少年の育成のために～子どもに規範意識を身につけさせよう～」をテーマとして、家庭、学校、地域において果たす役割と必要とされる活動について、学識経験者、教育関係者、少年育成関係者等と意見を交わしながらみんなで考えてみることとする。

6 シンポジウム次第

時 間	内 容
13:30～13:40	<p>■開会挨拶</p> <p>主催者 (社)全国少年警察ボランティア協会会長 遠山 敦子 来 賓 警察庁生活安全局長 樋口 建史</p>
13:40～14:40	<p>■基調講演</p> <p>石堂 常世 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授) 「身につけさせよう 規範意識」</p>
14:40～14:50	休憩(10分) (舞台転換)
14:50～16:00	<p>■ パネルディスカッション(第1部) [70分]</p> <p>「次代を担う少年の育成のために ～子どもに規範意識を身につけさせよう～」</p> <p>パネリスト紹介(4分)</p> <p>○ コーディネーターあいさつ(10分) 村松 励(専修大学人間科学部教授)</p> <p>○ パネリスト意見発表(各12分) 小林 寿一(科学警察研究所犯罪行動科学部少年研究室長) 石井 卓之(東京都新宿区立戸塚第一小学校校長) 飯塚 紀一(神奈川県・少年補導員) 藤井 貢(警視庁・少年育成課新宿少年センター主査)</p> <p>○ 補足意見(各2分)</p>
16:00～16:15	休憩(15分)
16:15～17:25	<p>■パネルディスカッション(第2部) [70分]</p> <p>○ ディスカッション(45分)</p> <p>○ 質疑応答(15分) ◇質問—来場者 ◇回答—パネリスト</p> <p>○ コーディネーターまとめ(10分)</p>
17:25～17:30	<p>■閉会あいさつ</p> <p>主催者 (財)社会安全研究財団 専務理事 上田 正文</p>